

大学生達による地域資源を活用した地域づくり

～地域の様々な団体と連携し、次郎長スタンプラリーを開催～

静岡英和学院大学の岡部ゼミ（岡部真智子講師）の学生は、静岡市清水区の「清水の次郎長の生家」を活用し、地元商店街やNPOなど様々な団体と連携して、次郎長スタンプラリーを実施。地域の資源（魅力）を通じて、小学生の放課後の居場所づくりや商店街の賑わいを創出する取組として、新聞にも取り上げられるなど反響を呼んでいる彼女達に話を伺いました。

きっかけ

岡部ゼミでは、住環境と福祉について研究しています。今年の3年ゼミ生は、古民家を使って、高齢者や障害者、子どもやその親が集える場所づくりをテーマとして調査研究を進めてきました。

県内外の先進地事例を調査し、その成果を基にして、実際に静岡市清水区にある「清水の次郎長の生家」を拠点とした次郎長スタンプラリーを企画、実施しました。

なお、実施にあたっては、活動対象となる地元商店街、次郎長生家を活かすまちづくりの会、市立清水小学校などに聞き取り調査を行い、現状やニーズの把握をしました。



静岡英和学院大学 岡部講師室にて
(左から) 小川さん、成田さん、田内さん、岡部講師



商店街の一角にある生家では、当時の生活の様子がわかる資料が展示されている。

ねらい

「清水の次郎長スタンプラリー」を企画した目的は主に2つあります。1つは、地元の小学生に次郎長を知ってもらうこと、もう1つは、小学生と地元商店街との交流です。

清水の次郎長という自分の町の魅力を再発見し、関心を持つことによって、地域への愛着や地域とのつながりが生まれてきます。また、商店街の活力低下が進む一方で、子どもの放課後の居場所がないという課題もあるため、小学生と地元商店街を結びつけ、新たな交流の機会を創出するイベントとしました。

取組・成果

スタンプラリーは、精肉店や青果店、酒屋など店先で次郎長の本名や生涯に関するクイズを出題し、8つのチェックポイントを回るものでしたが、当日（26年1月26日）は、小学生や親子連れを中心に多くの方が参加し、予想以上の賑わいでした。

参加した児童からは、「次郎長について知らないことが多かった。大学生と話ができて楽しかった。」などの感想がありました。

商店街からも、「子どもたちとの触れ合いや、賑わいが生まれうれしい」など好意的な意見が多く聞かれました。



酒屋の前でクイズを実施。



イベント当日は、多くの小学生とその両親達が生家を訪れた。

今回の取組については、準備の段階から、商店街、NPO小学校など多くの皆様の協力をいただきながら実施することができました。

また、修了後に実施した参加者や店主などへの聞き取り調査でも、おおむね良い評価を得ることができました。

これらの結果・成果については、活動の詳細を記した報告書を作成し、26年2月12日に「地域の資源を活用した住民活動に関する調査報告会」を開催、報告しました。

取材を終えて

地域課題の解決に向けて、NPO、地域づくり団体、商店街や小学校など、地域の様々な団体と連携・協力した活動は、他の地域コミュニティ活動の参考となる事例です。

また、今回取材したゼミ生3人は、手話や吹奏楽のサークルに所属しながら、自ら地域ボランティア活動に参加するなど、地域活動への意識も高い皆さんでした。

小川さんからは、今回の取組を1回のイベントで終わらせるのではなく、今後も後輩などと協力しながら関わっていきたいとの意見もありました。

今回の貴重な成果を活かし、今後も是非活動の展開を期待します。